

G5サヘル合同軍とEMPABBに 対する能力構築支援



日本補正予算：2020年3月～2021年3月

予算：日本(29万6,000米ドル)

主なパートナー：アリウン・ブロンダン・ベイ平和維持学校(EMPABB)、
国連マリ多面的統合安定化ミッション(MINUSMA)、西アフリカ諸国
経済共同体(ECOWAS)諸国およびG5サヘル

目的

このプロジェクトは、サヘル地域の軍、文民、警察およびG5サヘル合同軍をはじめ、アフリカの関係当事者の紛争管理・平和維持能力の強化を目的としています。

このプロジェクトにより、サヘル・サハラ地域で民間人保護と文民・軍事活動の実施に携わる関係者の能力がさらに強化されるとともに、訓練環境が改善されます。

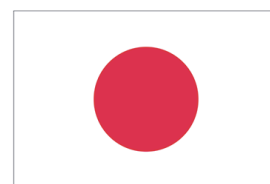
プロジェクトの成果

成果1：アリウン・ブロンダン・ベイ平和維持学校の戦略計画に含まれる分野で、G5サヘル合同軍とマリ国軍の軍事・警察・文民要員の能力を強化すること

成果2：アリウン・ブロンダン・ベイ平和維持学校の制度面での能力を強化すること

SDGsへの貢献

このプロジェクトは、SDGsの目標16に貢献します。



From
the People of Japan

開発課題

2012年以来、マリ北部の危機は特に混迷を極めています。マリをはじめとするサヘル諸国は、これまでに類を見ないジハード兵の流入を受け、治安の悪化に直面しています。このように治安情勢が急変している一因として、資力や物的手段、物流手段の充実した組織的犯罪集団がテロやあらゆる種類の密輸、密売に手を染めていることが挙げられます。マリでは、2015年の和平合意が実施に移されているものの、国連の報告によると、北部の治安は依然として不安定であり、中部とクリコロ地域でも治安情勢の悪化が続いています。中部で見られるコミュニティ間の緊張状態は、ニジェールやブルキナファソなど、近隣国の動向に影響され、さらに高まっています。テロリストの活動は他の国々にも拡大する傾向にあり、ガーナ、トーゴ、ベナンなどは警戒態勢にあります。このように、サブ地域で治安の悪化と危機が深刻化する中で、アリウン・ブロンダン・ベイ平和維持学校(EMPABB)は、マリをはじめとするサヘルの危機管理に重要な役割を担っています。